

1. 団体の設立趣旨

つながりあう社会へ

私たちは今、高度な効率化・情報化がすすんだ、便利な社会に暮らしています。

しかしその裏で、人と人の繋がりは薄れ、深い孤独感が蔓延し、地域コミュニティが崩壊するなど、社会の問題も深刻化しています。

世界では、これまで貧しいと言われていた国々が急激に発展し、豊かさを享受する人が増える一方で、開発による環境破壊、貧困格差、エネルギー・資源をめぐる問題など、多くの深刻な事態も表面化しています。

そんな中起きた東日本大震災と原発事故は、私たちにコミュニティの大切さとその危機を痛感させました。

今、こうした数多の問題を抱える社会を生きていくためには、多様な情報や選択肢から、自ら考え、選び、行動する力を一人一人が身につけることが肝要です。しかし過剰な情報や便利すぎる社会はその力を奪い、生きる力を弱めています。

ゆいツール開発工房^{ラボ}の主メンバーは、環境省の体験的な学びの場づくりに6年以上携わってきました。その現場経験の中で、市民の手による課題解決の必要性和、コミュニケーションによる学び合いの可能性を見い出しました。

人と人の関わり合いや繋がり合いが、社会の中で損なわれつつある「絆」や「生きる力」「生きる知恵」を取り戻す鍵ではないかと考えます。

そこで、「NPO 法人ゆいツール開発工房^{ラボ}」を設立し、人と人の結びつきを生み出す道具やしくみ（ゆいツール）を開発することで、社会の中にコミュニケーションや学びの機会を増やし、地域でさまざまな人たちがともに学び合う基盤づくり、持続的に活動展開できる環境づくりなどをサポートし、持続可能でいきいきとした地域コミュニティづくりのお手伝いをしていきたいと思っています。

2. 団体の目的と主な事業

ゆいツール開発工房^{ラボ}は、広く日本や世界の人々に対して、ESD（持続発展教育）プログラム開発をはじめとした教育活動事業等を行うことで、社会の中に世代や立場を越えたコミュニケーションや学び合いの機会を創出し、地域コミュニティの持つ課題（環境破壊、少子高齢化、地域文化の衰退など）の解決や、持続可能な社会構築に寄与することを目的とする。

- (1) ESD（持続発展教育）に関わるプログラム開発事業
- (2) ESD（持続発展教育）に関わる人材育成事業
- (3) ESD（持続発展教育）の社会展開のための事業
- (4) 教育活動、地域活性化事業等を行う他の団体との情報交換及びネットワークの構築事業

【過去の主な事業】

- ・インドネシア・ロンボク島における環境保全のための ESD プログラム開発・人材育成事業
(2013 年度～2015 年度)
- ・インドネシア・スマトラ島の森林保全をテーマとした ESD プログラムの開発
(2012 年度～2015 年度)

3. 団体の役員

ゆいツール開発工房^{ラボ}は、以下の役員によって運営されている。

理事長	山本 かおり	
副理事長	小嵐 妙	
理事	松原 裕子	有限会社イリュージョンミル代表取締役
理事	松原 雅裕	デジタルウムプロジェクト！主宰
理事	森 高一	森企画
監事	小山 庄三	

4. 会計報告

特定非営利活動法人ゆいツール開発工房^{ラボ} 貸借対照表(2015 年 3 月 31 日現在)

(単位:円)

(資産の部)		(負債の部)	
預金	190,845	前受金	82,902
未収金	623,000	未払費用	11,119
前払費用	90,380	借入金	500,000
		(正味財産の部)	
		一般正味財産	310,204
資産合計	904,225	負債・正味財産合計	904,225

2015年度 特定非営利活動に係る事業 活動計算書
2015年4月1日から2016年3月31日まで

特定非営利活動法人ゆいツール開発工房(単位:円)

科 目	金 額		
I 経常収益			
1 会費・入会金収入			
会費・入会金収入			
会費収入(正会員)	90,000		
会費収入(賛助会員)	35,000	125,000	
2 事業収益			
①ESD に関わるプログラム開発事業	1,820,230		
②ESD に関わる人材育成事業	1,814,000		
③ESD の社会展開のための事業	45,500	3,679,730	
3 寄付金収入			
寄付金	54,460	54,460	
4 その他収益			
利息	51		
雑収入	0	51	
経常収益計			3,859,241
II 経常費用			
①ESD に関わるプログラム開発事業			
(1) 人件費	596,573		
(2) その他経費	1,198,917	1,795,490	
②ESD に関わる人材育成事業			
(1) 人件費	513,465		
(2) その他経費	1,317,011	1,830,476	
③ESD の社会展開のための事業			
(1) 人件費	35,000		
(2) その他経費	74,312	109,312	
雑費	48,863	48,863	
経常費用計			3,784,141
当期経常利益額			75,100
当期正味財産増減額			75,100
前期繰越正味財産額			310,204
次期繰越正味財産額			385,304

特定非営利活動法人ゆいツール開発工^ラ房 貸借対照表(2016 年 3 月 31 日現在)

(単位:円)

(資産の部)		(負債の部)	
預金	107,476	前受金	79,672
未収金	616,460	借入金	300,000
前払費用	41,040		
		(正味財産の部)	
		一般正味財産	385,304
資産合計	764,976	負債・正味財産合計	764,976

貸借対照表脚注

- ・未収金のうち 597,000 円は②人材育成事業に関わるもので、4 月 28 日に回収済みである。
- ・未収金のうち 19,460 円は会費と寄付に関わるもので、5 月 2 日に回収済みである。
- ・前払費用 41,040 円は、①プログラム開発事業に関わるものである。
- ・前受金 79,672 円は、①プログラム開発事業に関わるものである。

5. 活動報告

1. スマトラ島の森林保全をテーマとした ESD プログラムの開発 ～国立公園スタッフの意識啓発と住民支援プログラム等～

地球環境基金の助成を受けて、インドネシア・スマトラ島リアウ州ブキッティガプル国立公園周辺（TNBT）で以下の活動を行った。詳しい報告については、別紙のとおり。

【活動 1】村での取り組み支援（農業グループ他）/レマン村/8 月～3 月

- ・レマン村に発足した農業グループメンバーへの支援
果物の苗木（グアバの 1 種）の支給（メンバー 31 人各 1 本または 2 本づつ）とセミナーの開催。
- ・村の女性グループへの支援
プラスチックごみを再利用したクラフトづくり講習会の開催。（現地※ごみ銀行との協働）

【活動 2】野菜づくり見本園/レマン村/5 月～3 月

- ・レマン村で野菜作りを実践したが、水の確保が難しく消極的な継続となった。

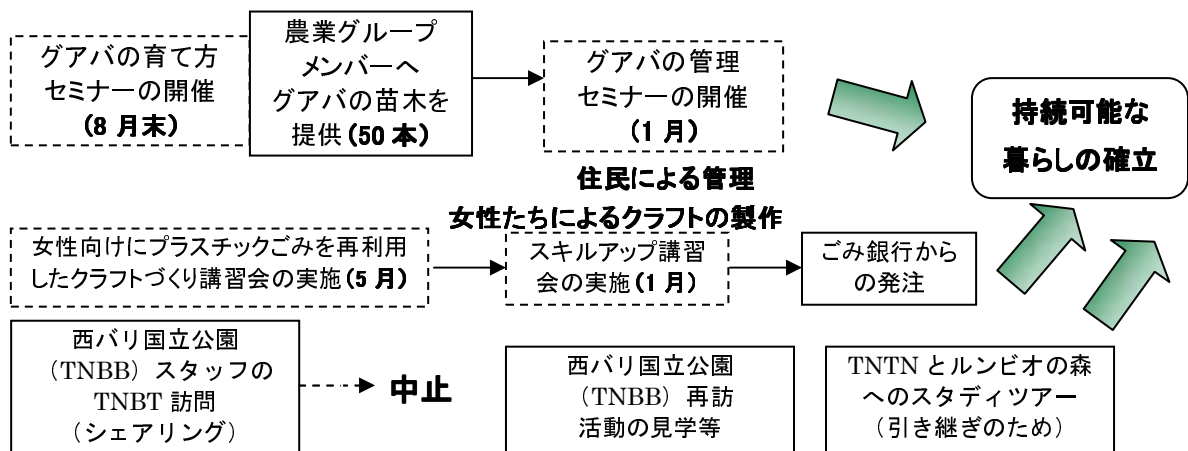
【活動 3】西バリ国立公園（TNBB）スタッフの TNBT 訪問（シェアリング）

⇒スマトラ島で発生した森林火災による煙害のために活動を中止せざるを得なかった。

- ・1 月に西バリ国立公園を再訪し、住民グループのリーダーと面談する予定だったが、本人が不在（別の島で活動中）のため、国立公園スタッフとの面談だけとなった。併せて、住民グループの活動を見学した。

【活動 4】TNBT スタッフと PASA スタッフ向けスタディツアー

- ・予定にはなかったが、ゆいツールが 4 年間の活動で得た現地 NGO とのネットワークを引き継ぐために実施した。テッソ・ニロ国立公園（TNTN）とルンビオの森のパイオニア財団を訪れた。パイオニア財団の紹介で、ブキッ・ドゥアブラス・コトパンジャンの住民グループとも意見交換を行った。





グアバの苗木の管理セミナー(1 月)



ごみを再利用したクラフトづくり講習会(5 月)



スキルアップ講習会の成果



グアバの苗木の様子

2. インドネシア・ロンボク島における環境保全のための ESD プログラム開発・人材育成事業 ～ごみ銀行の活性化と学校への普及啓発の促進～

公益信託地球環境日本基金の助成を受けて、インドネシア・ロンボク島での活動を以下のとおり行った。詳しい報告については、別紙のとおり。

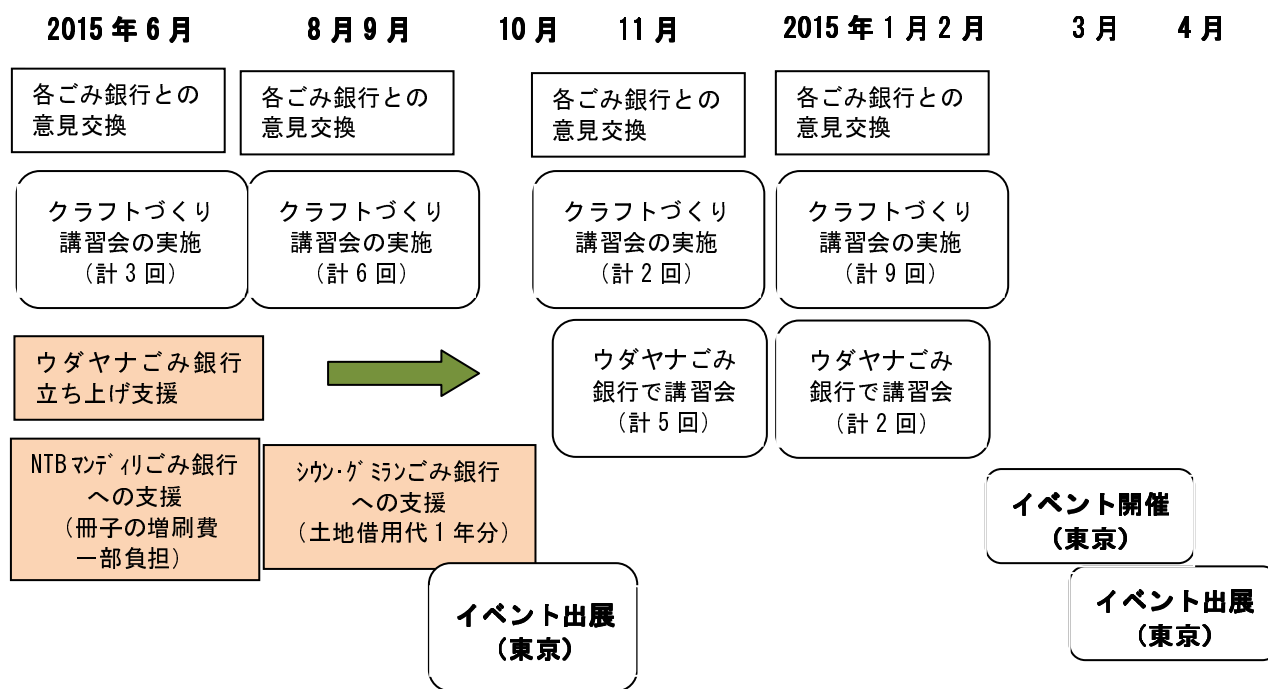
- (1) いくつかのごみ銀行への支援
- (2) 普及啓発活動（クラフトづくり講習会等）の実施
- (3) 日本人学生や日本人訪問客の受け入れ
- (4) 現地の若者の育成
- (5) イベントの開催（東京、2016 年 3 月）
- (6) イベント出展（グローバルフェスタ 2015）（アースディ東京 2016）



シウン・グミランごみ銀行でのスキルアップ講習会の様子



ボンデール村での講習会の様子



ウダヤナごみ銀行での講習会の様子



シウン・グミランごみ銀行ごみ集積場



3 月のイベントの様子



アースディ東京 2016 出展の様子

3. 原稿執筆

○依頼元：一般社団法人地球・人間環境フォーラム

○内容：グローバルネット 2015 年 7 月号に寄稿

「インドネシア・ロンボク島の環境保全を目指して～プログラム開発とごみ銀行の活性化～」
2 ページ分

4. ロンボク島エコツアーの実施

ロンボク島でのゆいツールの活動を紹介したり、村の暮らしに触れロンボク島の魅力に気づいたりするエコツアーを開催した。参加者は5月のツアーまでで、のべ30名。

対象者は、日本からの旅行客のほか、現地に在住の日本人やその家族である。

日程	参加人数	ツアー内容	特記事項
2015 年 8 月 30 日（日）～ 9 月 4 日（金） 5泊7日	3 名 （夫婦と 30 代女性）	ロンボク島まるごと体験エコツアー（里山トレッキング、ごみ銀行の活動紹介、市場見学、伝統料理づくりなどを体験）	旅行会社を通して広報したが人が集まらず、もともと声をかけていたゆいツールスタッフの友人夫妻とバリ在住の友人が参加した。
2015 年 12 月 26 日（土）～ 29 日（火） 3泊4日	3 名 （高校生 2 名と教員）	ヤシ砂糖づくりの見学、トレッキング、市場見学、お菓子作り体験などを体験した。	筑波大学附属坂戸高等学校2年生の生徒さんと先生。北ロンボク在住の岡本みどりさんの紹介。
2016 年 2 月 18 日（木） 日帰り	5 名 （ロンボク在住の日本人）	グラ・アレンづくり見学ツアー（マタラム市近郊の村で、ヤシ砂糖の作り方を見学、村を散策、お昼をご馳走になった。）	マタラム大学のワリッドくんの協力で、ツアーを実施した。ロンボクに長く暮らす日本人が、村の暮らしを知らないことに驚いた。
2016 年 2 月 24 日（水） 日帰り	5 名 （内小学生 2 名、幼児 1 名）	ドラゴンフルーツ狩り（畑で収穫しながら食べ放題。持ち帰りは 1.5 kg まで無料。田んぼの中の畦道を歩いて帰る。昼食をご馳走になる）	ダサン・アゲン村のトニーさん（英語教室を運営）の協力で、ドラゴンフルーツの畑で収穫を楽しんだ。ランブータンを購入した参加者もいた。
2016 年 3 月 6 日（日） 日帰り	10 名（内小学生 5 名、幼児 2 名）	ドラゴンフルーツ狩り（同上）	ゆいツール現地スタッフ 2 名がガイドとして参加。
2016 年 4 月 18 日（月）～ 23 日（土） 5泊7日	3 名 （女性 3 名）	ロンボク島まるごと体験エコツアー（市場見学、トレッキング、村でお菓子作り体験、ヒンドゥー寺院見学、織物の里・焼き物の里でお土産選びなど）	ゆいツール現地スタッフ（運転手＆ガイドと日本語ガイド 2 名）が対応した。
2016 年 5 月 12 日（木）～ 17 日（火） 5泊7日	1 名（20 代男性）	ロンボク島とおきエコツアー（海でシュノーケリング、村を散策、ごみ銀行の活動見学、ヒンドゥー寺院見学など）	ゆいツールのボランティア（吉本さん）と現地ボランティア（ラフマン、ジャミ）なども一部参加しながらツアーを行った。



2015 年 9 月↑2016 年 4 月↓のツアーの様子



グラ・アレンづくり見学ツアーの様子

5. ロンボク島エコプロダクツの紹介など

ロンボク島で生産された、オーガニック商品（ヤシ砂糖やヤシ砂糖入りの飲みもの）やあまり布から作ったアクセサリー、ごみ銀行の商品（廃品を再利用）を、日本国内で紹介した。

